

# 地域での支え合い活動に関するアンケート調査結果

地域福祉国保課

## 1 調査目的

地域住民の方々が互いに支え合い、助け合うことができる仕組みづくりを進めるため、県民のみなさまの認識を把握し、今後の地域福祉の促進の基礎資料とさせていただきます。

## 2 調査対象など

調査対象: 県政モニター679人(うちインターネットモニター387人)

調査方法: 郵送及びインターネット

調査期間: 平成28年7月13日～8月5日

回収結果: 588人(回収率86.6%)

構成比はパーセントで表し、小数点以下第二位を四捨五入して算出しています。  
そのため、合計が100%にならない場合があります。

## 3 結果概要

### ・地域での支え合い活動の現状について

地域での支え合い活動について、「高齢者のふれあいサロン活動」は42.3%と認知度が高いが、「助け合い(生活支援)活動」は11.7%にとどまっている。

また、「ない、知らない、わからない」が44.2%と、高い比率を占めている。

支え合い活動への参加については、「今後機会があれば参加したい」が50.9%となっており、「積極的に参加している」「少し参加している」を加えると、65.2%が参加意識を有している。

### ・機会があれば参加してみたい地域での支え合い活動について

機会があれば参加してみたい地域での支え合い活動として、「見守りネットワーク」が34.4%、「高齢者のふれあいサロン活動」が32.1%、「助け合い(生活支援)活動」と回答された方が30.1%であった。

### ・高齢者支援として行政が重点的に取り組む必要がある項目

高齢者支援として取り組む必要がある項目として、「相談体制の整備」が55.8%、次いで「介護保険の対象とならないような介護や日常生活の支援」が55.1%、「健康づくりや生きがいづくりの促進」や「外出の際の移動手段の整備」は44.2%であった。

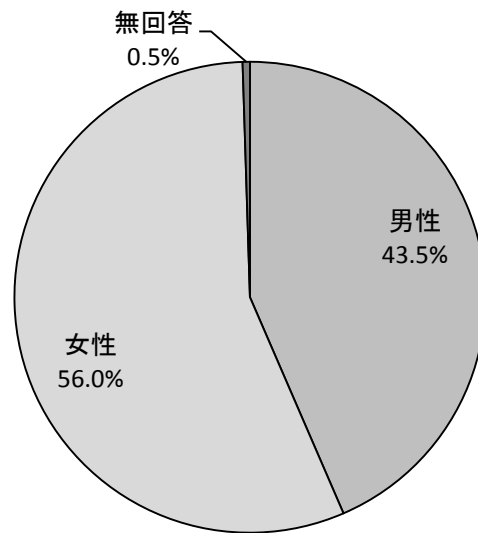
### ・できると思う「安否情報の発信」について

高齢者の独り暮らしや夫婦のみの世帯となった時の「安否情報の発信」については、「積極的に外出し、地域の人と交流する」が39.3%、「1日に一度は必ず電話をかける」が29.9%だった。

#### 4 回答者属性

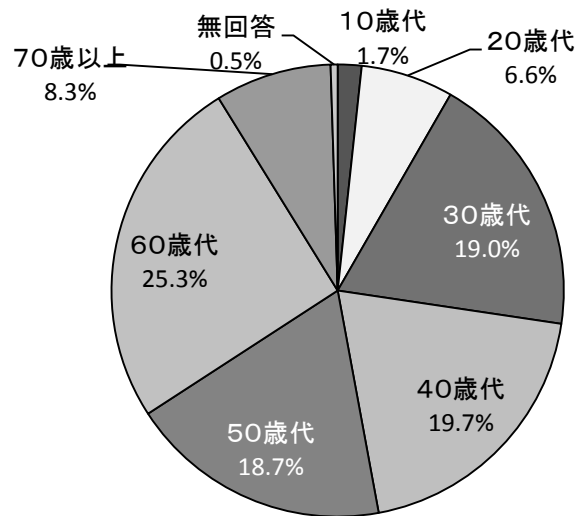
##### (1) 性別

	人数	割合
男性	256	43.5%
女性	329	56.0%
無回答	3	0.5%
計	588	100.0%



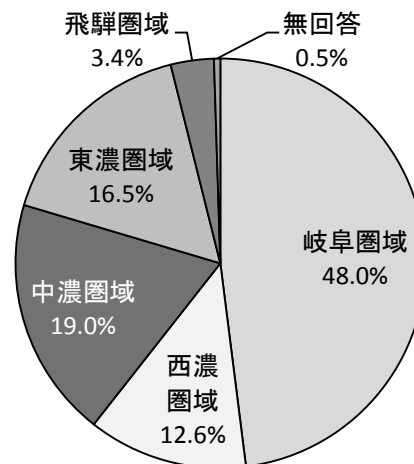
##### (2) 年代別

	人数	割合
10歳代	10	1.7%
20歳代	39	6.6%
30歳代	112	19.0%
40歳代	116	19.7%
50歳代	110	18.7%
60歳代	149	25.3%
70歳以上	49	8.3%
無回答	3	0.5%
計	588	99.8%



##### (3) 居住圏域別

	人数	割合
岐阜圏域	282	48.0%
西濃圏域	74	12.6%
中濃圏域	112	19.0%
東濃圏域	97	16.5%
飛騨圏域	20	3.4%
無回答	3	0.5%
計	588	100.0%



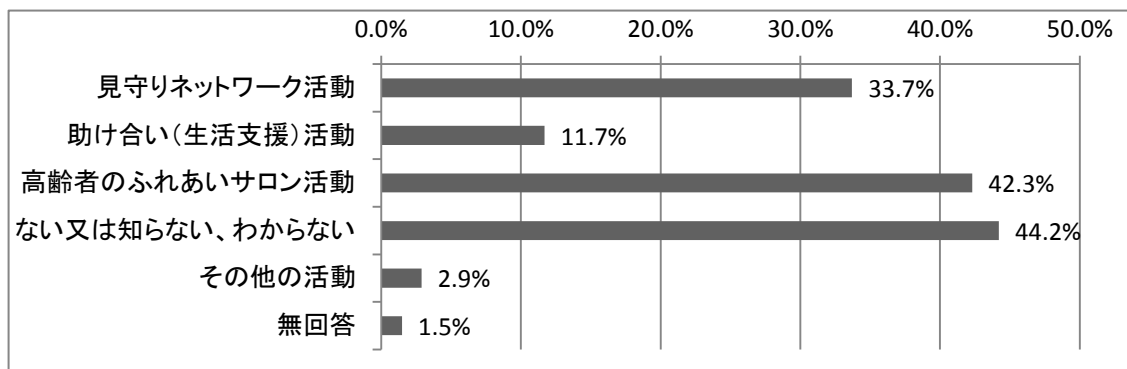
## 5 調査結果

問1 あなたのお住まいの地域には、次のうちのどの活動がありますか。(複数回答あり)  
(回答者数588)

	人数	割合
見守りネットワーク活動	198	33.7%
助け合い(生活支援)活動	69	11.7%
高齢者のふれあいサロン活動	249	42.3%
ない又は知らない、わからない	260	44.2%
その他の活動	17	2.9%
無回答	9	1.5%
計	802	-

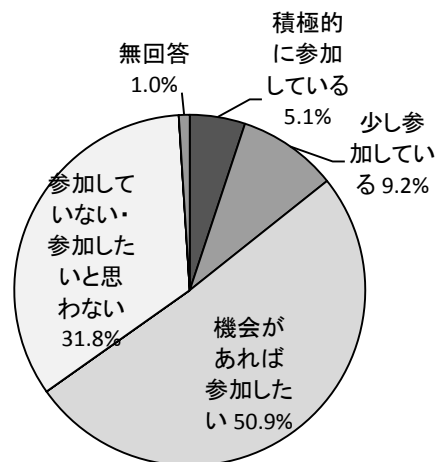
※その他の活動

高齢者の配食サービス、老人クラブの活動、災害時の要援護者支援マップづくり



問2 問1の活動について、あなたは参加(利用を含む)していますか。

	人数	割合
積極的に参加している	30	5.1%
少し参加している	54	9.2%
(今は参加していないが)機会があれば参加したい	299	50.9%
参加していない 参加したいと思わない	199	33.8%
無回答	6	1.0%
計	588	100.0%



問3（問2で「機会があれば参加したい」と答えた方）

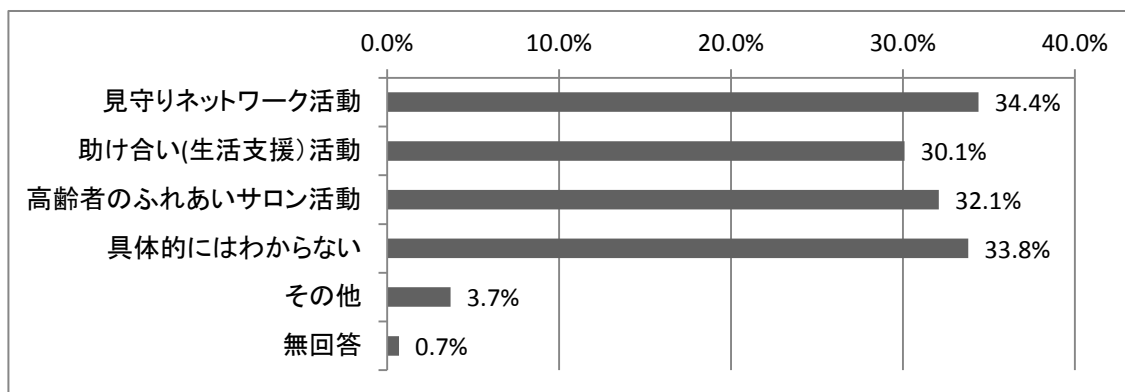
あなたはどの活動に参加してみたいと思いますか。（複数回答あり）

（回答者数299）

	人数	割合
見守りネットワーク活動	103	34.4%
助け合い(生活支援)活動	90	30.1%
高齢者のふれあいサロン活動	96	32.1%
具体的にはわからない	101	33.8%
その他	11	3.7%
無回答	2	0.7%
計	403	-

※その他の活動

災害時要援護者支援マップの更新、子どもの一時預かりなどの活動



問4 (問2で「機会があったら参加してみたい」「参加していない、参加したいと思わない」と答えた方)

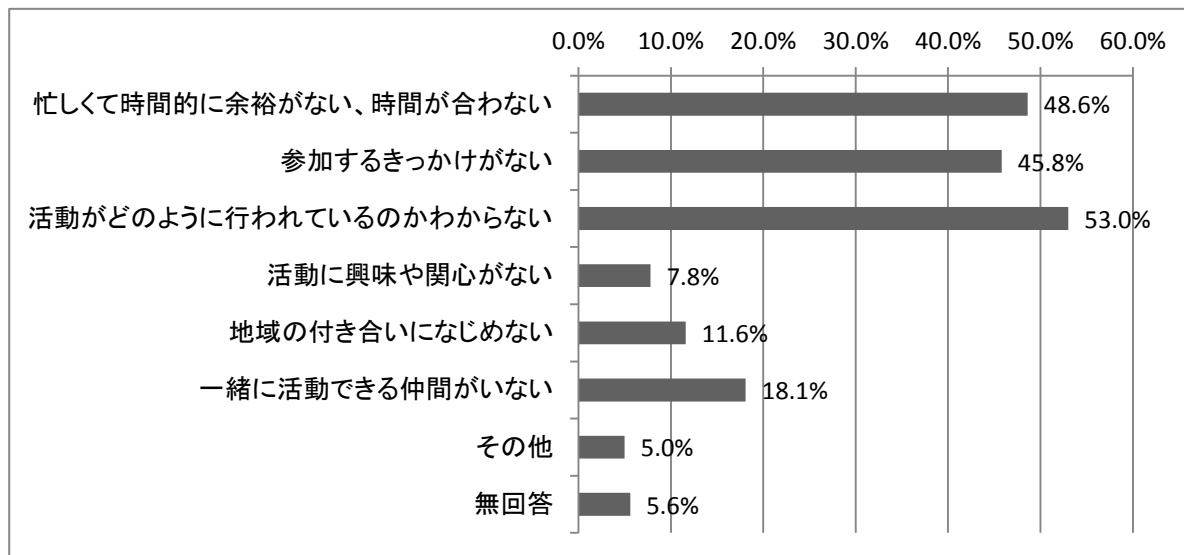
あなたが活動への参加していない理由は何ですか。(複数回答あり)

(回答者数498)

	人数	割合
忙しくて時間的に余裕がない、時間が合わない	242	48.6%
参加するきっかけがない	228	45.8%
活動がどのように行われているのかわからない	264	53.0%
活動に興味や関心がない	39	7.8%
地域の付き合いになじめない	58	11.6%
一緒に活動できる仲間がいない	90	18.1%
その他	25	5.0%
無回答	28	5.6%
計	974	-

※ その他の意見

- ・ 気軽に参加できる雰囲気ではないような。ある程度、年齢がいとてないと、参加しづらい。
- ・ 学生である。平日は授業があり、通学している。
- ・ 身体障害があるから
- ・ 仕事をしていることと、乳幼児がいるため。



問5 (問4で「参加するきっかけがない」「活動がどのように行われているかわからない」と答えた方)

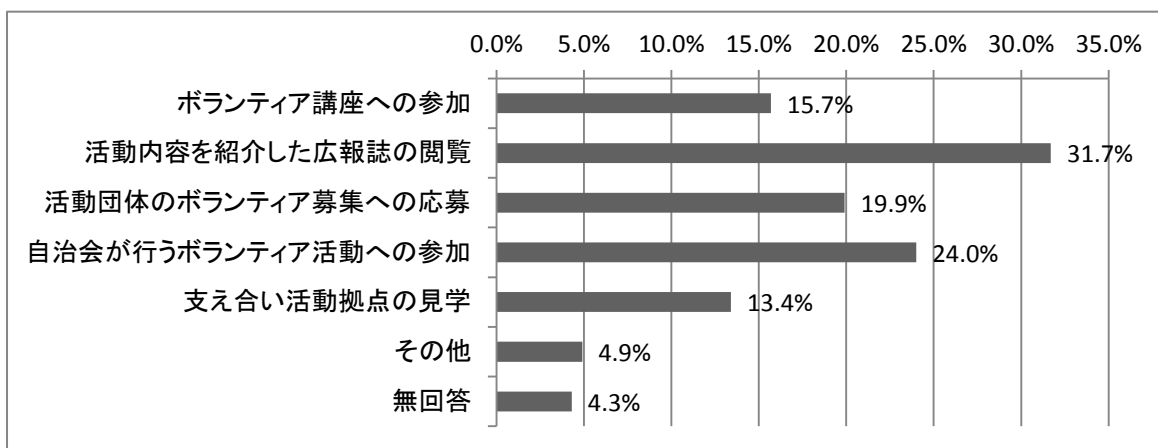
どのようなきっかけがあれば、活動に参加しようと考えますか。

(複数回答あり) (回答者数492)

	人数	割合
地域の支え合い活動実施のためのボランティア講座への参加	77	15.7%
活動内容を紹介した広報誌の閲覧	156	31.7%
活動団体のボランティア募集への応募	98	19.9%
自治会が行うボランティア活動への参加	118	24.0%
支え合い活動拠点の見学	66	13.4%
その他	24	4.9%
無回答	21	4.3%
計	560	-

※ その他の意見

- ・ 仕事や家庭の事情に差し支えなければ。
  - ・ 主宰者、関係者からの誘い
  - ・ 身近で支援が必要な高齢者がいれば
- など



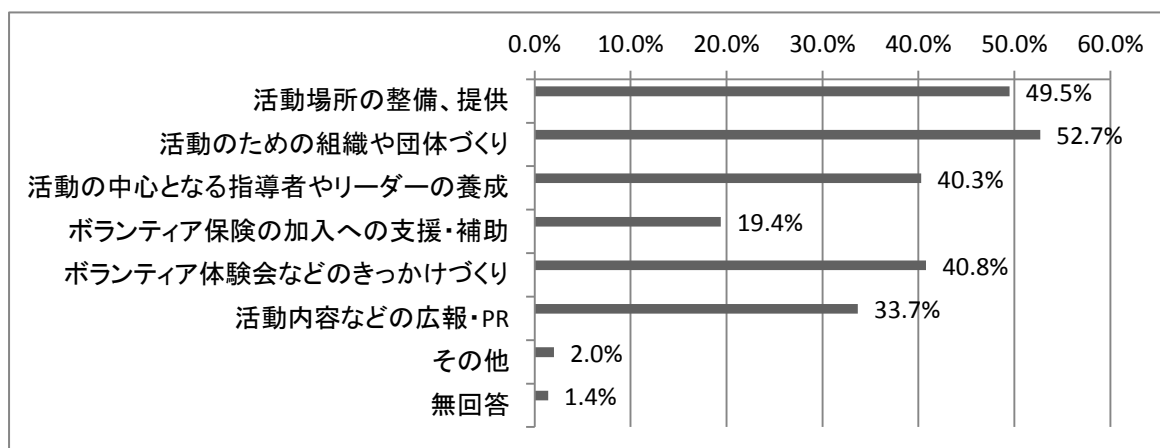
問6 住民参加による地域での支え合い活動を普及するために、行政(市町村・県)が重点的に行う必要があると思うものは何ですか。

(複数回答あり) (回答者数588)

	人数	割合
活動場所の整備、提供	291	49.5%
活動のための組織や団体づくり	310	52.7%
活動の中心となる指導者やリーダーの養成	237	40.3%
ボランティア保険の加入への支援・補助	114	19.4%
ボランティア体験会などのきっかけづくり	240	40.8%
活動内容などの広報・PR	198	33.7%
その他	12	2.0%
無回答	8	1.4%
計	1,410	-

※ その他の意見

- ・ 地域のボランティア活動や町内の役をまったくしない成人に強く参加を促す。たとえば、ボランティア活動に参加中又は参加したことがあることを指す札等を作成、玄関に掲げ、ボランティア活動未経験者に啓発する。
- ・ 通学路見守り隊が、非常に少ないので、何らかの報酬を考えて増やしてほしい
- ・ 社会福祉協議会の組織力の強化  
など

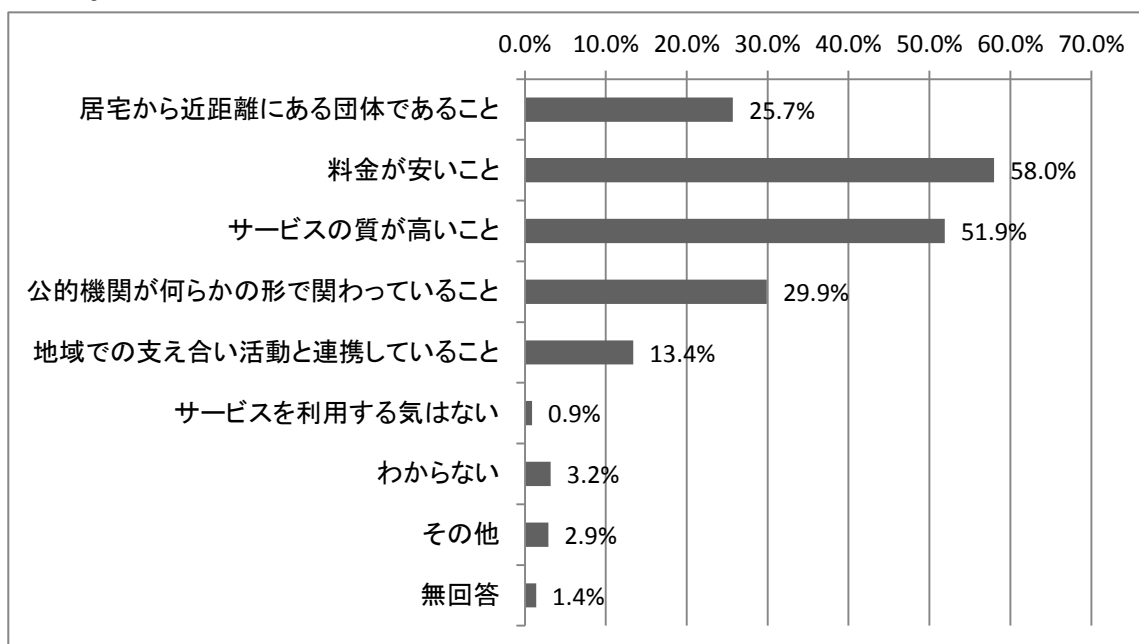


問7 日常生活支援を受けなければならない立場となり、ボランティア団体によるサービスの利用を検討することになった場合、何を重視して利用を判断しますか。(複数回答あり) (回答者数588)

	人数	割合
居宅から近距離にある団体であること	151	25.7%
料金が安いこと	341	58.0%
サービスの質が高いこと	305	51.9%
公的機関が何らかの形で関わっていること	176	29.9%
地域での支え合い活動と連携していること	79	13.4%
ボランティア団体によるサービスを利用する気はない	5	0.9%
わからない	19	3.2%
その他	17	2.9%
無回答	8	1.4%
計	1,101	-

※ その他の意見

- ・ ボランティアの人がどういう人かよく分かっていないと家に入れるのは不安。活動自体は立派だと思うが、トラブルが心配なのでその配慮が必要だと思う。
- ・ 信用のできるボランティア団体であること  
など





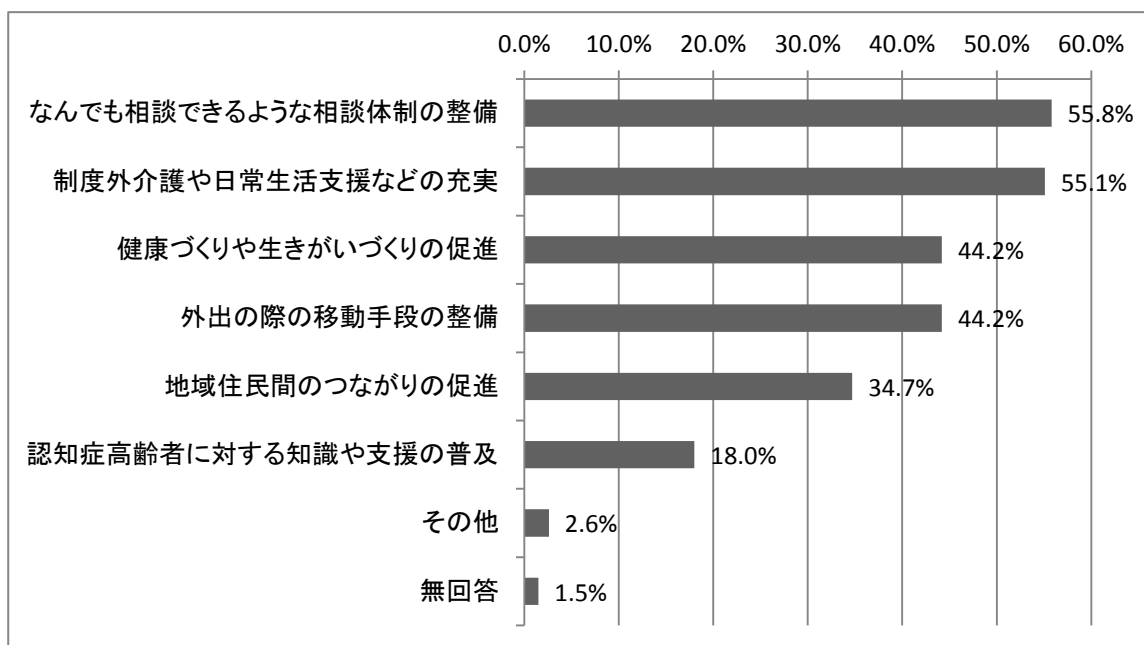
問8 高齢者の日常生活に係る福祉施策として、行政(市町村・県)が重点的に取り組む必要があると思う項目は何ですか。(複数回答あり) (回答者数588)

	人数	割合
身近な場所でなんでも相談できるような相談体制の整備	328	55.8%
介護保険の対象とならない、介護(軽微な介護)や日常生活の支援などの充実	324	55.1%
健康づくりや生きがいがづくりの促進	260	44.2%
外出の際の移動手段の整備	260	44.2%
支え合い・助け合いを目的とした地域住民間のつながりの促進	204	34.7%
地域における認知症高齢者に対する知識や支援の普及	106	18.0%
その他	15	2.6%
無回答	9	1.5%
計	1,506	-

※ その他の意見

- ・ 介護士の労働環境の充実
- ・ デイ・ショート・ケアサービスの共同送迎システム業者
- ・ 私の地区ではコミュニティバスの試行運転後、利用者が少ない理由からコース変更になりました。高齢の方が多いので今後バスを必要とされる方が増えるはずなので、試行期間などをもっと考えて欲しいです。

など

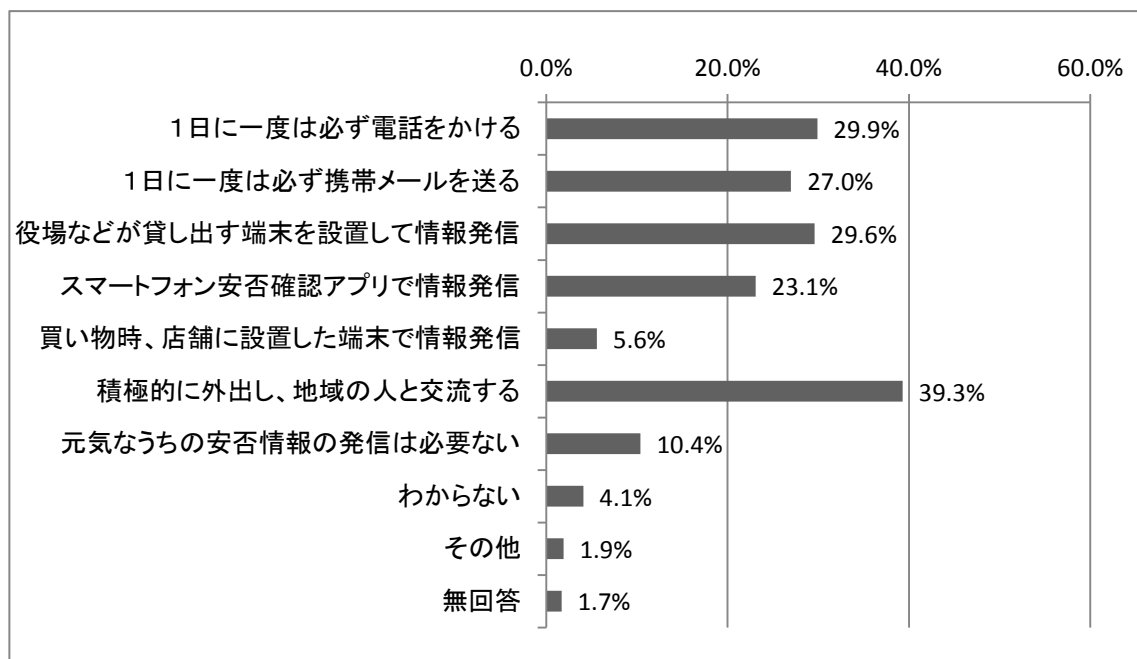


問9 高齢者の独り暮らしや夫婦のみの世帯となった時、どのような方法ならば「安否情報の発信」ができると思いますか。(複数回答あり) (回答者数588)

	人数	割合
1日に一度は必ず電話をかける	176	29.9%
1日に一度は必ず携帯メールを送る	159	27.0%
自宅に役場や消防が貸し出す小型端末を設置して、情報発信する	174	29.6%
手持ちのスマートフォンに安否確認アプリを入れ、情報発信する	136	23.1%
買い物などのついでに店舗に設置した端末から、情報発信する	33	5.6%
積極的に外出し、地域の人と交流する	231	39.3%
元気なうちの安否情報の発信は必要ない	61	10.4%
わからない	24	4.1%
その他	11	1.9%
無回答	10	1.7%
計	1,015	-

※ その他の意見

- ・ 元気なうちから・・・と意味は分かりますが、相手に迷惑かとも思う
- ・ 郵便物、新聞など配達関連への確認委託。 など



アンケートに御協力いただきましてありがとうございました。  
調査結果は、今後の地域福祉の取組において活用させていただきます。